

山本亜美

第5回二十五絃箏リサイタル

現在音

イマネ

二十五の糸

箏奏者山本亜美は、

二十五絃箏に魅了され、

その可能性と挑戦、

そしてこれから歩む道を模索し、

旅を続けている。

本公演は、コントラバス奏者で作曲家の沢田穰治氏に、新作及び共演を含めた総合プロデュースを託し、この道の案内人とする。また、日本の現代音楽の在り方を斬新に提起した『グループ音楽』の一員でもある、戸島美喜夫氏の作品により、新しい息吹を吹き込む。

公演名「現在音(イマネ)」という造語には、現在に生きる音をその場で伝えるという意味を持たせている。

一部 二十五絃箏独奏

「truth” in the dark」

作曲 沢田穰治

「ヴェトナムの子守唄」

作曲 戸島美喜夫(二十五絃箏版初演)

「モノクロームな極彩色」

作曲 沢田穰治(委嘱初演)

二部 モチーフ即興

「音の廻 糸の廻 (オトノネ イトノネ)」

無に還る波のように、人生は繰り返され、生まれ持った二に戻る

モチーフ 沢田穰治



沢田穰治 Jyoji SAWADA

(コントラバス奏者・作曲家)

作・編曲家、プロデューサー、ベーシストとして活躍。楽器は、ベースに限らず数種類の楽器も演奏。ショーロ・クラブでの活動と並行して、映画音楽・沖縄島唄・現代音楽・音響系作品の制作や、J-POPアーティストのプロデュースおよび作・編曲など、多岐にわたる音楽制作に携わっている。アントニオ・カルロス・ジョビンの作品集「Canta Jobim」、「NO NUKES JAZZ ORCHESTRA」、「武満ソングブック」などのプロデュース、アレンジャーとして関わる。また、横浜市文化振興財団作曲家シリーズに選出され、「silent movie」をリリース。バクトルの振り幅大に、ジャンルやカテゴリーに囚われず活動。近年は京都に居を移し、京都芸大にてバシエ音響彫刻の研究に関わっている。



戸島美喜夫 Mikio TOJIMA

(作曲家)

東京藝術大学楽理科卒。在学中、作曲家柴田南雄のもとで未来派の騒音音楽やE.ヴァレーズ作品、ミュージック・コンクレートなどの研究。この頃、友人の小杉武久らと「グループ・音楽」で活動。また、小泉文夫の民族音楽ゼミや講義を通じてヨーロッパ外の音楽に目覚める。1960年代後半から、名古屋で民謡調査、作曲、評論、教育などでの音楽活動。響の創意工夫を目指した「Invention Sonore」(全6曲)などの音響的作品。愛知県民謡を素材にした「三つの仕事唄」、「もどりうた」などの合唱作品。70年代後半には水上勉の戯曲「冬の棺」音楽担当をきっかけに劇音楽にも手を染める。これを元にした「冬のロンド」や「桑摘む娘」などのピアノ作品。80年代初めに出会った高橋悠治と水牛楽団のためのスライド付き歌物語「絵とき歌ときバナナ食民地」などの作品がある。



photo by ヒダキトモコ

山本亜美

Tsugumi YAMAMOTO

(二十五絃箏奏者)

文化庁新進芸術家国内研修制度研修生として、野坂操壽師に二十五絃箏を学ぶ。現在、主に二十五絃箏奏者として邦楽作品、現代音楽、即興、等ノンジャンルで活動している。国内での公演、また海外においても国際交流基金主催公演、同基金PAJにて、映像と音楽による米仏アーティストと共同製作し、北米ツアー開催。近年は仏のCunicum Novumとの共演により、「La Grange de Meslay」や「La Folle Journee」などの仏音楽祭に参加。2014年、二十五絃箏ファーストアルバム「つむぐ」を発表。2018年、セカンドアルバム「きざし」(ALM RECORDS/平成30年度文化庁芸術祭参加)を発表。2015年より、毎年リサイタルを開催し、様々なジャンルの作曲家への委嘱による新作発表をしている。自らの独自性を保ちながら、箏の表現域を広げ、あらゆる可能性を探っている。

2019年 11月 1日(金)

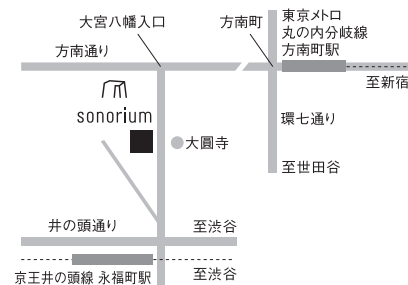
19:00開場 19:30開演

入場料 3000円(当日3500円)

チケット予約
amisound1725@gmail.com
090-6027-0422



後援 ALM RECORDS 弦楽器工房高崎
邦楽シヤナル BOSCO MUSIC
舞台進行 鶴川楽器本店
チラシ画 kao



sonorium (ソノリウム) 
東京都杉並区和泉3-53-16 TEL 03-6768-3000
http://www.sonorium.jp ✉hall@sonorium.jp
京王井の頭線 永福町駅下車(北口) 徒歩7分
東京メトロ丸の内線 丸の内分岐線 方南町駅下車 徒歩10分
お車でのご来場はご遠慮いただきますようお願いいたします。